

## 第14回 埼玉県新型感染症専門家会議 概要

1. 日時：令和2年9月2日（水）18：00～19：50

2. 会場：危機管理防災センター本部会議室

3. 委員（敬称略 五十音順）

岡部 信彦 川崎市健康安全研究所 所長

金井 忠男 埼玉県医師会 会長

川名 明彦 防衛医科大学校 教授

坂木 晴世 国立病院機構西埼玉中央病院 専門看護師

松田 久美子 埼玉県看護協会 会長

光武 耕太郎 埼玉医科大学国際医療センター 教授

4. 県側参加者

大野 元裕 知事

関本 建二 保健医療部長

星 永進 保健医療部 参事

本多 麻夫 保健医療部 参事

岸本 剛 衛生研究所 副所長

遠藤 浩正 本庄保健所 所長

## 5. 主な意見

### ア 現状の分析・評価について

- 家庭内感染が増えてきているため、若い人たちがウイルスを外から持ち帰り高齢者に感染させて重症化するというシナリオも想定される。(川名委員)
- 家庭内感染を防ぐことは難しいため、家の中に持ち込まないように外での感染対策を徹底し、体調に異変があった場合には、診断が終わるまでリスクの高い同居人には接触しないように配慮することなどをメッセージとして発信する必要がある。(坂木委員)

### **【県の対応】**

- 知事定例記者会見等において、感染リスクを下げるための取組について周知を行った。

### イ 8月28日付国事務連絡「新型コロナウイルス感染症に関する今後の取組」について（意見交換）

- ・ 国の決定を踏まえた感染拡大地域の定義、一斉検査について
- 埼玉県においては、PCR 検査の対象を検討してきた経緯があり、まずは濃厚接触者に限定し、その後無症状者への検査の拡大や複数の感染者が出た場合の重点的な実施など、非常に有効な対応をとってきたと思う。それに比べると、感染拡大地域における一斉検査については有効性が低いのではないかと。(金井委員、川名委員)
- 明確に一斉検査の基準を設けるのではなく COVMAT や保健所等で相談して決める方法が良いのではないかと。(光武委員)
- 地域における感染状況を踏まえ、感染拡大を防止する必要がある場合には、新宿区のようにクラスターが発生している店舗に限らず網羅的に検査することは非常に重要である。(岡部委員)
- ・ 検査体制のひっ迫の基準のたたき台について
- PCR 検査ではなくても、抗原検査で多検体を一度に検査できるものがあれば違ってくる。必ずしも PCR 検査だけではなく、抗原検査も含めて考えた方

がよい。(岡部委員、光武委員)

・保健所の体制整備について

- 国が示すような新たな人材バンクの創設は現実的ではない。保健師だけに特化した人材バンクというよりは、現在県から委託されているナースセンターを通して強化するという形をとらないと、窓口だけが増えて中身が伴わなくなる懸念がある。(松田委員)